

猫カリシウイルス上部気道感染症とは？

- 猫カリシウイルス（FCV）が原因です。上部気道の病原体と直接接触することで容易に感染し、また野外で蔓延しており、同居している猫が多頭数の場合の有病率は高い感染症です。
- FCVは多様性が高く、頻繁に変異し、多数の株が存在しています。病原性、抗原性、誘導される免疫の範囲も広範です。
- FHVやクラミジアおよび/またはボルデテラと同時感染することもよくあります。
- 非常に重篤で全身性疾患となるFCV感染（強毒全身性猫カリシウイルス感染症）が最近観察されています。

感染

- 症状を伴う急性感染またはキャリアー状態の猫は、口腔内、鼻腔内、結膜の分泌物のなかにFCVを排泄しています。
- 感染はおもに直接接触することにより成立します。しかし、ウイルスは乾燥した環境でも1カ月以上感染性を保つため、間接的な伝播も一般的に起こります。

臨床症状

- FCV株の多様性や猫の年齢によって症状は異なります。
- 口腔内潰瘍、上部呼吸器症状、高熱がみられます。一過性の関節炎による跛行が観察されることがあります。
- 肺炎はとくに幼若な猫でみられます。
- 慢性の口内炎や歯肉炎を持つ猫からFCVが検出されています。
- 強毒全身性猫カリシウイルス感染症では、発熱、皮膚の浮腫、頭部・手足における潰瘍性腫瘍や黄疸がみられることがあります。死亡率は高く（67%に及ぶ）、成猫ではさらに深刻な病態となります。

診断

- FCVのRNAはRT-PCRにより、結膜と口腔内のスワブ、血液、皮膚搔爬または肺組織から検出することができます。しかし、株の多様性があるために偽陰性となることがあります。

- RT-PCRの陽性結果は、慎重に解釈する必要があります。理由は、持続感染のキャリアー猫による低レベルのウイルス排泄が起こっている可能性があるためです。
- ウイルス分離は、RT-PCRと比べ感度は低くなりますが、生ウイルスを証明することができます。結膜サンプルは、フルオレセインまたはローズベンガル染色前に採取しなければなりません。
- 血清検査は推奨されていません。理由は、陽性反応が感染によるものかワクチン接種によるものを区別することができないからです。
- 強毒全身性猫カリシウイルスに関しては、臨床症状、高い伝染性、高い致死率、重篤な症状を呈する数頭の猫の血液から同じ株が分離されることにより、診断されます。

疾病管理

- 支持療法（輸液療法を含む）および看護ケアが必須となります。
- 食欲が減退している猫には、調整された、嗜好性の高い、均一に温められた食事を与える必要があります。
- 粘液溶解薬（例；プロムヘキシジン）または生理食塩水の吸入は、病態の緩和をももたらすことがあります。
- 広域スペクトラムの抗生物質は、細菌の二次感染防止を目的として投与されるべきです。
- FCVは、約1カ月間環境中で生存することができ、一般的な多くの消毒薬に抵抗性を示します。次亜塩素酸ナトリウム（5%漂白液の32倍希釈）が有効です。
- シェルターでは、新入りの猫は2週間の検疫が必要です。感染が認められる繁殖施設の母猫は子猫と隔離し、同腹子はワクチン接種を受けるまでほかの猫と一緒にしないようにします。
- 無症候のFIVまたはFeLV感染猫は、順調にワクチン接種を受けることができます。
- 早期ワクチン接種は、過去に感染した子猫を持つ母猫から産まれた子猫、または感染の危険性のある猫の場合に考慮するべきです。

ワクチン接種の推奨

- すべての健康な猫に、コアウイルスの1つであるFCVに対するワクチン接種を受けさせる必要があります。
- 9週齢時と12週齢時の2回接種が推奨され、1年後に初回ブースター接種を受けさせます。
- ハイリスク環境では、16週齢時に3回目を接種することが推奨されます。
- ブースター接種は3年ごとに受けさせるべきですが、ハイリスク環境にいる猫に対しては毎年接種したほうが良いでしょう。
- ワクチン接種歴が不明の成猫に対しても、同じウイルス株を含有しているワクチンを使用し、2～4週間隔で2回接種したほうが良いでしょう。
- 十分にワクチン接種を実施した飼育猫群において発症した場合、異なる株を使用しているワクチンに変更することは有益となる可能性があります。
- とくに異型株による感染の場合、カリシウイルス感染症から回復した猫が生涯感染から防御されているわけではありません。このような猫へのワクチン接種は今後も推奨されます。



■ 慢性潰瘍性増殖性歯肉口内炎
(Albert Lloretの好意による)



■ 脱落性口腔内潰瘍 (+ 鼻炎)
© Merial



■ 重度の口・鼻粘膜潰瘍
(Albert Lloretの好意による)



■ 強毒全身性猫カリシウイルス感染症
(Albert Lloretの好意による)